

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念とは別に事業所の理念を全職員で考え提示している。「共に寄り添い心地よい生活をしていただけるよう努めます」の寄り添いについて職員一人ひとりから寄り添いについてアンケートを実施し理念について振り返りをしている。また、事業所の理念を作った時の職員が少なくなり、現在新しい理念を職員全員で作成する準備及び話し合いをしている。	法人理念とともに、開所時より掲げている事業所理念がある。時と共に利用者、職員の入れ替わりがあり、今回、現状が理念に沿った支援となっているか職員にアンケートを取り職員間でも話し合いを行い、現在の理念を継続していく事となった。話し合いの場を持ち改めて振り返り、今後の支援の方向性を職員全員が確認し日々の支援に活かしているところである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや町内の敬老会に参加し地域の人との交流を増やしている。また、地域の花壇作りなどに参加し、地域の人と挨拶をしたりコミュニケーションをとって交流を深めている。	今年は、コロナ禍で地域の行事は軒並み中止となっている現状に加え、元々地域からの受け入れが消極的な地域にありため、事業所は苦戦している面がある。連携クリニック併設の事業所主催の夏祭りには利用者と共に参加し地域の方と触れ合ったり、事業所としてもいつでも気軽に寄って貰えるようにと、少しずつでも地域に溶け込もうと努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域全体に話すような場はないが地域の行事に参加し認知症について理解していただいている。運営推進会議実施後、会議内容を町内会長にも報告し地域の方にも理解していただけるようにしている。中学生の職場体験や実習生も受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設している小規模多機能と合同で開催し日常生活や行事の報告をしている。それぞれの施設の違いを理解していただけるようご家族やご利用者にも参加いただいている。防災訓練にも参加していただきご家族からも意見をいただいた。意見内容を次回の訓練に活かせるようにしている。	包括職員の助言もありコロナ禍のため、定期的には会議開催が難しかったが、9月に併設事業所と共に開催された。参加者は多彩であり、それぞれの立場から意見が出され活発に協議されている。災害時の対応方法が議題に上がり、事業所、地域、行政等々、多方面への働きかけや避難訓練の手順も検討しなおすなど、今後の運営に活かしている。進捗状況、結果等も関係者、家族に報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターの勉強会や事例検討会に参加している。また地域包括センターの職員に相談をし助言をいただいた。運営推進会議にも参加していただいている。グループホームでの認知症の症状についての取り組みや悩みなども伝えている。	日常的には包括職員との連携は図られており、相談もしやすく良い関係が築かれている。市職員とも必要に応じて相談し、利用者家族の事で保健師に繋げるなど、相談できる体制は整っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族の要望などもあり安全確保の観点から玄関は施錠しているが生活の一部として作業をすることで時間をみながら少しずつであるが解錠などもしている。身体拘束について内部研修を行い、その他朝礼時や会議などでも身体拘束について日々話し合いをしている。	虐待の研修と共に年2回内部研修を実施し、職員は身体拘束については理解できている。事業所は車の往来の激しい道路脇に位置しているため、日中解錠は基本と十分理解はしているが、家族からの要請もあり職員の手薄時のみ施錠し、利用者の安全を確保している。できるだけ職員の気配り、目配りで閉塞感のない環境を心掛けている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について外部研修で学んだことを内部研修で伝え、全職員で共通理解するようにしている。日々朝礼時や申し送り等でも気になることなどは話をし会議などでも話し合いをしている。職員のストレスが虐待につながるないように全職員で虐待について学び、理解するように努めている。	年2回の研修実施で職員は虐待の定義は理解はできている。管理者は閉塞性のあるものとして虐待に重きを置き、日頃から職員のストレスには気を配っている。話しやすい雰囲気づくりや時間を見つけては言葉をかけるなど、風通しの良い職場を心掛けている。虐待となりかねない事例には家族にも報告し職員全員で話し合い良い対処法を皆で考え支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学んだことを他職員に伝え、実際に活かしていけるよう全職員で学んでいくことが必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはにわかりやすく説明をし家族の不安や疑問を理解しながら説明をさせていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族参加の行事後にアンケートを実施し意見などを言いやすいようにしている。意見、要望があれば職員会議で話し合い内容について検討している。運営推進会議でも意見が言いやすいような雰囲気づくりをしている。	年2回家族参加の行事があり毎回多数の参加がある。行事後にアンケートを実施し意見を聞く機会を設けている。また、面会時にも様子を伝えるとともに要望等も伺うようにしている。玄関には意見箱も設置されており、家族が意見を出せる機会は多くなっている。出された意見で個人的な要件は早急に対応して家族に返すようにしている。事業全般に関する内容等は年4回のおたよりで報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を実施し、2ヶ月毎に定例会議を実施している。職員の意見が言いやすいように一人ひとりの意見や思いを聞き話し合うことで業務改善に活かしている。	毎月の職員会議、2ヶ月毎の定例会議では職員から多くの意見が出され検討されている。毎日の申し送りでもその都度意見は出され、必要に応じてミニカンファレンスを開き、支援が良い方向に向かうよう話し合い改善に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善交付金の活用や有給休暇使用の環境を整えている。資格所得や勤務状況に応じて、やりがいをもって働けるように給料アップなども考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月担当の職員に内部研修を実施してもらい、職員同士が話やすい環境づくりをすることで一人ひとりの自信につながるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	4か月に1回グループホームの会への参加や他事業者の運営推進会議にも参加し、情報交換を行いながらサービスの質の向上に活かすようにしている。今後、職員同士の交流も行っていきたい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前には見学など情報収集を行いながら事前に関わりをもつようにしている。ご利用者やご家族の要望や意見を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に利用者の思いやご家族の悩み、要望などをお聞きし、良好な関係づくりができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のサービス事業所からの情報やご家族の思い、ご利用者の希望などを話し合いご利用者に必要な支援ができるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者と職員が共に寄り添いながら互いに協力してあたたかい関係を築くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	サービス担当者会議にはご家族と一緒に実施しご利用者やご家族の思いなども大切にしながら話し合いをしている。面会時に時間を制限せず来られたときには日常の様子を伝えホームでの様子を共有できるようにしている。ご家族からの要望や思いも聞きながらご利用者の支援をしている。	6ヶ月毎のプラン見直し時には、それぞれ利用者、家族は必ず出席し、本人のこれからの支援について確認している。コロナ禍ではあるが面会希望も多く窓越しの面会もある。受診介助やコロナ禍以前には、外出・外食や外泊に連れ出す家族も多く、季節の衣替えの支援など、家族の方達もそれぞれできる範囲で支援に努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所でのドライブや買い物、ホームに入居する前に利用していた床屋や図書館へ行くなど大切にしてきた思い出話をしながら関係を保てるよう努めている。時々友人なども面会に来られ、昔の話で盛り上がりたりし友人関係が保てるように努めている。	馴染みの場所周辺のドライブは積極的に行われており利用者の楽しみとなっている。コロナ禍で出かける場所も限られているが、できるだけ利用者の思いを大切に支援している。入居前から利用していた馴染みの床屋の利用や図書館に行きたい希望の利用者には一緒に出かけている。友人知人の訪問もあり関係が保てるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の様子を把握し関係がうまくいくように席なども配慮している。職員が間に入りながらコミュニケーションの橋渡しを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時等には、その後の相談やフォローができるように努めている。契約が終了しても行事などでお言葉をかけ気軽に来ていただけるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者にあった寄り添いをつねに意識するように日々の生活でご利用者の希望や意向の把握に努めている。ご家族からも情報を聞き思いに沿うようにしている。困難な場合は生活歴やホームでの日々の暮らしのかかわりから把握できるように努めている。	入居前に自宅訪問して、基本情報を基に本人、家族の意向を詳細に確認している。入居後の生活の中から見えてくる、気づきや言動、表情からも思いを汲み取り、一人ひとりの目線に合わせ、その人らしい暮らしが送れるように支援している。気になる点や注意点などは日々の申し送りノートに記録し日々のケアに繋がるように全職員で共有している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に自宅や利用中の施設を訪問し、生活環境が変わっても以前生活してきた馴染みの暮らしができるように情報収集をしている。サービス利用の経過等を伝えることで全職員が把握するように努めている。	入居前に本人、家族、前任のケアマネや事業所から情報提供してもらい生活環境が変わっても馴染みの暮らしが送れるようにアセスメントを実施し、入居後の生活が安心できるように努めている。家族からも適宜情報を得たり、職員間での情報共有することで、これまでの生活が継続できるよう支援に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌や一人ひとりの経過記録を確認し申し送りで状態を把握している。ご利用者専用の申し送りノートを活用し職員が情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者の思い、ご家族の意向と担当職員が作成したものを計画作成者が確認している。必要に応じ職員同士で話し合い、3か月に1回ご家族にも意見を聞き現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族の意向を踏まえ、計画作成者と担当職員が中心となり、日々の生活から見えてくる職員からの意見も参考にケアプランを作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月毎に介護計画の見直しを行い、担当者会議には家族にも出席してもらい意見をもらっている。日々の状態の変化も見逃すことなく現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化などを個々に記録し申し送りノートなどでも情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれにあったサービスを提供していくためご利用者の様子やご家族からの情報を活かして支援するようにしている。心療内科、歯科往診などもとりいれ、ご家族の状況に合わせた対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加し交流をもつようになっている。ホームの行事にも近隣の人が参加し一緒に行事を楽しむことができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続する人やホームに往診可能な主治医に希望する人など状況に応じて対応している。受診の付き添いはご家族にお願いしているが状況によっては職員が支援することもある。	本人、家族が希望するかかりつけ医を尊重している。家族支援が困難な場合は往診医への移行も可能である。受診の際は日々の健康状態を報告しており、主治医との連携は図られている。隣接するクリニックと事業所との関係を築いており協力体制が整えられている。また専門医への受診の助言もあり、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要時にはホームに往診可能なクリニックの看護師に相談をし支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関へ行き情報交換を行っている。退院後も安定した生活が送れるように、医療機関いつでも相談できるような関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にホームの方針を伝え重度化した場合などの説明を行っている。他事業所や医療機関等へ移る際は、そのつど話し合い、ホームでもできることを伝えながら理解していただいている。ご家族の思いや希望をくみ取るようにして支援している。	入居契約時に「重度化対応や終末期ケア対応方針」について説明を行い、本人、家族の同意を得ている。事業所として通常介護では対応出来る範囲外の状態と施設で判断した時には、今後の方向性について家族と相談し、特別養護老人ホームや老人保健施設等を紹介し、現状に合った支援を繋げる推進もしている。今後の方針として、看取りケアの体制を整備して、本人、家族の意向に添えるように取り組んでいく方向である。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の内部研修を実施し急変時や事故発生時に備え対応の訓練を行っている。職員会議でも職員の意見を取り入れて急変時に対応できるようにしている。	急変時や事故発生時のマニュアルやフローチャートも整備され、リビングの目のつく場所に設置されている。法人内研修に参加してAED操作も全職員が修得している。また、定期的に研修会を開催しており、急変時や事故発生時の対応について修得し実践力を身につけている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、併設事業所と合同で防災設備の職員指導のもと昼夜想定の実施している。そのうち1回は運営推進会議の委員や地域の人にも参加していただき実施した。町内の役員の人から近隣の防災マップや助言をいただき協力をいただいている。	年2回、併設事業所と合同で防災設備の職員指導の下、昼夜想定の実施している。地域の方からの参加もあり協力体制は整っている。マニュアルの作成、避難場所、消火器の使い方や連携体制も整っており全職員が周知している。非常用食品、備品、利用者情報は避難ボックスに入れる等も整備されている。併設施設や近隣のクリニックとの協力体制も整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士の申し送りや排泄時の伝達には名前をイニシャルにするなどプライバシーを配慮している。ご利用者1人ひとりを尊重した言葉遣いを心がけており誇りやプライバシーを損ねないようにしている。	プライバシー保護について内部研修を実施し全職員が徹底している。一人ひとりに合った接し方や言葉かけで、個別ケアに取り組んでいる。日々の生活の中でも慣れ合いにならないように距離感も大事にしている。不適切なケア時はその場で注意し合ったり、振り返りを行ない全職員で心温まる対応が出来るように心掛けている。日々の記録や利用者情報管理も責任ある取り扱いが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の思いや希望を出しやすいよう職員からコミュニケーションをとり自己決定できるように確認しながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の観察でご利用者のペースを把握し希望にそって一人ひとりに柔軟に対応できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者が着たい服を選ぶことや希望に沿って用意するときに手伝うこともある。その人らしいおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	雑誌や新聞の広告を見ながら食べたい物を伺うなど職員と一緒に決めながら手作りごはんや、外食などもしている。季節を感じてもらえるようにどのような調理をすればいいかコミュニケーションをとり職員と一緒に食事準備や片付けなどをしている。	献立や調理は法人内の業者に委託している。利用者は職員と共に食器の準備や盛り付け、配膳、食器洗いなど、利用者の出来る範囲で個々の能力を引き出している。外食や弁当、行事食などの楽しみの食事を企画も定期的に行っている。おやつの中にはお好み焼、たこ焼き、和菓子を作ったり、誕生日にはケーキを作ったりと食べる喜びを醸し出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録しご利用者の状態を把握している。水分を十分に取れない方にはゼリーなどで取ってもらえるようにそのときの状態に合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合わせた言葉かけや口腔ケアをしている。場合によっては職員が支援し食事以外の時間にも口腔ケアをしていただけるよう工夫をしている。希望者のみであるが定期検診を行いそれぞれの口腔ケアについて歯科医から助言をいただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日誌やチェック表を見ながらトイレ誘導をし一人ひとりの排泄ペース、パターンを把握している。言葉をかけることによってトイレで排泄できるように心掛け誘導を行うように努めている。	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように支援している。一人ひとりの習慣や身体機能を理解し、さりげない声かけや羞恥心にも配慮し、適切な支援が出来るように全職員が統一した介護方法を修得している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者の便の様子をチェック表にし服薬の調整や水分補給などもおこなっている。体を動かしホーム内を歩行することや繊維のある食べ物や水分補給で便秘予防をしているが困難時にはかかりつけ医に相談して薬の調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者の希望や状況によって入りたくないときなどは日にちや時間を変更している。一人ひとりに合わせた会話を楽しみながら支援している。入浴剤や音楽を流すことで気持ち良く入浴できるように支援している。	午後からの入浴を基本としているが、希望があれば時間帯の制限は設けていない。利用者が安全に入浴できるように福祉用具も整備されている。季節に応じて柚子湯や菖蒲湯など変わり湯を楽しんだり、音楽を流したりと、ゆっくりと気持ち良く入浴ができるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	申し送りや記録でご利用者の日中、夜間などの様子を把握し、その人にあったペースで休息、安心して眠れるように支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬処方箋を個々にファイルにとじ、急な対応でも確認できるようにしている。変更時には申し送りなどで職員全員が把握できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今まで生活してきたことを変わらずできるようにホームにいても日々の生活で散歩や買い物に出かけ役割をもってやりがいにつながるよう支援している。希望の外出なども取り入れ気分転換をはかるように喜んでいただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者の希望に合わせ、ご家族の協力もいただきながら一人ひとりの外出を支援している。季節に合わせた外出をすることで春夏秋冬を感じ、ご利用者と職員が共に楽しめるよう行事などを計画している。	一人ひとりの希望に応じた外出支援は可能である。年間行事を計画して、ドライブ、花見、紅葉、植物園、地域の行事など、外に出る機会を多く企画して気分転換を図っている。また、家族からの外出支援も大事にしている。外出時には思い出作りの写真を撮って、家族が来所した時に渡したり、広報に載せたりと元気で楽しく過ごしている様子を家族にも配布している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者1人ひとりの能力を理解し事業所で管理している。必要時にはご家族と相談後、職員と一緒に買い物へ行き使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者やご家族からの希望で取次は自由になっている。その時の様子を把握しながらご利用者の思いを大切に、いつでも電話できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓から明かりをとっており日差しの強いときには手作りで作った日よけカーテンで空調を調整している。ご利用者と相談し季節を感じてもらえるような装飾や草花なども取り入れ居心地の良い空間で過ごせるように配慮している。	共有空間は広く、天井の梁も高く天窓からは明るい陽射しが常時射している。フロアの壁には大きな木に季節の飾りつけを利用者と職員が共に飾り、季節を感じている。ホールの所々にソファを置き利用者が好きな場所で寛げる工夫がなされている。室温や湿度、空気清浄機などを置き快適に過ごせるように配慮している。ホールには常に職員が居り、お話ししたり見守ったりと常に気配り目配りがあり安心できる生活の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日々の様子を見ながら好きな場所で居心地よく過ごせるようにソファや小上がりを用意している。ご利用者同士気の合う方とお話しができるように席なども配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者とご家族と相談して使い慣れた馴染みの物を持ちこんでいただきその方に必要な物を自由に飾っていただいている。ホームでも居心地良く過ごしていただけるように配慮している。	入居時は馴染みの物の持ち込みは自由である。本人、家族と相談し安全にも配慮しながら、環境を整えて、その人らしい居室作りを行っている。部屋の掃除は個々の能力を活かしながら、職員と共に行ない自立した生活が送れるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者一人ひとりの状態に合わせて安全面を配慮しながら押し車の置き場所や家具などを設置している。必要に応じてすべり止めマットも利用している。		